

自家用飼料作物確保における耕作放棄地再生利用の事例

取組主体 ・ 農業者

地区名 ・ 片貝地区

解消面積 ・ 119a

再生作業年 ・ 平成26年度

導入作物 ・ 牧草

取組のきっかけ ・ 畜産(繁殖牛)経営における牧草の自己生産

取組の概要

国の補助事業を活用し、自己所有農地の隣接地や基盤整備済の近辺の農地で荒廃化している圃場を解消し、自身が営んでいる畜産業（繁殖牛）で使用する牧草を生産する圃場として再生させた。

取組のきっかけ

畜産（繁殖牛）経営をしているが、現段階では所有農地で生産している牧草のみでは足りず、不足分は購入している状況で、今後は購入せず、自己生産分で賄うために、解消事業に取り組んだ。

取組主体の感想

自身の所有する農地だけでは牧草を十分に生産できず、かつ近隣地に作付けしていない農地があってもほとんどが荒廃しており、借りて作付けするにも解消作業が必要で、その分費用がかさんでしまうので困っていたが、耕作放棄地再生利用緊急対策交付金のおかげで自己負担の費用を大幅に抑えることができ、その他の作業費に充てることができたので、十分に助かった。

解消状況例

再生前



再生後



連絡先：埴町農業再生協議会（埴町）

電話番号：0248-43-2112 FAX：0248-43-2137

活用事業：耕作放棄地再生利用緊急対策（国）